学んで 話して 楽しい にほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部　発行
〒610-0121
城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル２階　城陽市国際交流協会内
電話　0774-57-0713
編集者　＜西山雅文＞　niciyama0323@gaia.eonet.ne.jp

第一回学習発表会

日頃の日本語学習の成果を発表

昨年12月13日（日）にぱれっとＪＯＹＯで「夢気球」第１回学習発表会が開催されました。日頃の日本語学習の成果を発表しようということで、５人の学習者が壇上に立ちました。二部屋通し抜きの会場には学習者、支援者、ぱれっとＪＯＹＯ上野館長、関係者等43名の方が集まり「夢気球」渋谷さんの司会で始まりました。発表では、担当支援者から学習者のプロフィールやエピソードが話され、「夢気球」ならではの温かい雰囲気となりました。

発表した学習者と支援者、発表内容の概略を紹介します。（発表順）

〈１番目〉ジョコさん（インドネシア出身、「夢気球」ぱれっと教室で２０１５年９月～）支援者は宇野均さん。宇野さんの軽妙な紹介から始まりました。題名「あきらめないで」実習生として日本に来て少しですが、自分自身を励ます言葉として「あきらめないで」を大切にしています。仕事でも、日本語の勉強でも、友達でも（彼女も）。―ジョコさんは１番目で少し緊張していましたが、大きな声の日本語で語ってくれました。「あきらめないで」は会場で聞いていた参加者の胸に響き、大きな拍手が起こりました。

〈２番目〉リダンさん（インドネシア出身、「夢気球」ぱれっと教室で２０１３年９月～）支援者は岡田美智子さん。岡田美智子さんとの対話の形で発表しました。題名「仲間とともに夢に向かって」私は大きな夢を持っています。航海士の資格を持ち、船に乗りたい。日本語の勉強を続け、仕事に役立てます。友達と夢を語り、故郷のインドネシアで家族と暮らしたい。―リダンさんは、岡田さんとの対談で胸にいだく希望をはっきりと日本語で語りました。対談は、アットホームな雰囲気で、リダンさんが岡田さんに寄せる信頼感が会場に伝わってきました。

〈３番目〉チョンさん（ベトナム出身、「夢気球」ぱれっと教室で２０１２年５月～）支援者は山下規夫さん。自動車の学科試験の日本語支援もしています。題名「日本での生活」日本に来た時は、仕事の言葉や、習慣で苦労しました。でも、日本語の勉強を続けて、日本語能力試験Ｎ２に合格し、バイクの免許を取ることもできました。日本で結婚し、今は自動車の免許を取ることを目指しています。―ひとことひとこと確かめるように話すチョンさん。日本での生活の歩みがにじみ出ているようでした。会場からは「よくがんばっているね」と称賛のつぶやきがもれました。

〈４番目〉プンワイイさん（香港出身、ＪＩＥＡ教室で２０１４年２月～）支援者は奥田るみ子さん。教室同様、にぎやかで楽しい雰囲気に包まれました。題名「写真からの思いで」（写真をスライド上映）私の写真アルバムを紹介します。若い時、結婚した時の様子です。子どもたちと過ごしているところです。子どもは日本の学校です。家族を大切にしています。―プンワイイさんは、とても聞きやすい明瞭な日本語で話されました。地域社会に積極的にかかわっていることに参加者の関心が集まりました。

〈５番目〉イムマンヘンさん（シンガポール出身、ＪＩＥＡ教室で２０１４年２月～）支援者は奥田るみ子さん。妻のプンワイイさんと一緒に日本語を勉強しています。題名「日本語の先生」日本語を勉強することが楽しみです。私の子どもは日本の学校なので日本語が必要です。そして、近所の人と日本語で話します。―奥田先生と日本語を楽しく勉強しています。イムマンヘンさんは、手ぶり身ぶりを交え、大きな声で会場に話しかけられました。日本語の言葉がすぐ出ないときは、そばで奥様の手助けがあり、家族ぐるみで日本の生活を楽しんでおられるようです。（以上、ひとり10分前後、約１時間の発表となりました。）

今回の学習発表会の特徴は、第一に身近なことがらが語られたこと、第二に日本語のレベルの違いはあっても、積極的に発表されたこと、第三に発表学習者と支援者の協力で発表に臨まれたことです。

学習発表の後、アトラクションとして伊藤幸一氏による中国の楽器、二胡・フルスの演奏を聴きました。伊藤氏は中国からの帰国者で、南部茜さんに通訳をしていただきました。しばし、異国の楽器の音色を楽しみました。アトラクションの後、参加者は５テーブルに分かれ、学習発表者を囲んで懇談しました。日本語の勉強のことだけではなく、日本の文化や習慣についても話しが弾み、あっという間の30分間でした。会が終わった後も、学習発表会の題字を掲げて、学習者、支援者の記念撮影やおしゃべりなど、熱気が続く学習発表会でした。

（庶務　片岡敬愛）

京都府施策懇談会

●ぱれっとＪＯＹＯ教室を視察

11月29日に京都府外国籍府民共生施策懇談会のメンバーが夢気球ぱれっとＪＯＹＯ日曜教室を視察されました。この懇談会は京都府が「外国籍府民に関する諸問題や取り組むべき課題について意見を求め、施策実施の参考とするため」に平成20年から開いている会議です。

懇談会の今年のテーマが「日本語学習機会の拡充と、より良い学習環境の構築に向けて（外国籍府民と地域の共生を進めるために）」であること、夢気球が京都府国際センター主催の「日本語支援ボランティア養成講座」をきっかけに立ち上げられたこと、また今年度は私が委員になっているため城陽での視察となりました。

実施に先立ち府国際課からのアンケートがあり、皆さまにはお手数をおかけいたしました。ご協力ありがとうございます。アンケートには運営者１・支援者17人・学習者16人（滞在１年未満２、１～５年未満９、５年以上５）から回答がありました。学習者アンケートは日本語だけでは無理があるなど、言葉の面などから夢気球では実施していないので、回答の多かったものをいくつか紹介します。「相手がゆっくり話せば聞き取れる」（８）・「簡単な漢字まじりの言葉が読める」（11）・夢気球以外に「独学で勉強している」（11）・「自宅近くの日本語教室で学びたい」（11）・「地域の人との交流のために学んでいる」（10）・「暮らしやすくなるために学んでいる」（13）。また、「日本語教室やボランティアにもっとこんなことをしてほしいという要望」では「時々モミジや桜を鑑賞したい」「グループで日本語のゲームをしたい」「月曜から土曜の夜に教室を実施してほしい＊１」などがありました。＊１については学習者が夢気球の活動についてよく理解していないからだと思われます。時には夢気球「日本語教室」についても話してあげてください。

支援者アンケートは夢気球でも実施しているので概ねの状況についてはご存じかと思いますが、今回のアンケートで目についた点がありました。「ＷＥＢ通信授業」についての問いがあり、支援者側からはその実施に難色を示すものが多かったですが、学習者からは半数近くの７人が肯定的でした。「便利だけど日本語支援活動の醍醐味に欠ける」といった気持の表れでしょうか。もう一点支援者からの提案として「日本で暮らしていくための基本事項、例えば病院、学校、職場、買い物、近所付合い等について、その道に通じた人が作成した指導要領や基本テキストが欲しい」という意見がありました。皆さんの授業では必要でしょうか。協会に「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」（教材例集）文化審議会国語分科会編があります。使いやすいものではないかも知れませんが、医療機関、薬の利用、地震や火事に備える、住環境、買い物、金融機関、公共交通、タクシー、郵便・宅急便の利用など場面ごとの教案なので必要に応じて是非参考にしてください。

さて、当日は学習者15人、支援者15人に参加していただき『教室の参観と学習者との意見交換、支援者との意見交換』を行いました。懇談会委員11人の中には地域日本語教室の現場を初めて見る人もいた様です。日曜教室は実習生の学習者が多く、普段の教室とは少し違った様子ですが、若く熱心な学習者と支援者もあわせると30人ばかりとなる教室の活発さが大きくアピールされたと思います。

学習者との懇談では、30分以上かけて教室に通っている（４～５人）、日本人の友人がいる（４～５人）、日本語検定を受けた・受けたい（９人）、「道の尋ね方や切符の買い方を知りたい」、「仕事はキツイが教室に来るとリラックスできて元気がでる」、「検定をとって帰国後に役立てたい」などの意見が出ました。

視察を通して地域日本語教室がほとんどボランティアの力で実施されている事や外国人住民にとって大切な場所である事が懇談会でも十二分に認知されたと思います。養成講座やスキルアップ研修を京都府等が提供していく重要性は会議でも話されていました。年度末には懇談会から府への提言をまとめる予定です。当日、上子懇談会座長が「行政がやるべきは、支援活動そのものに下手に口出しするのではなく、ボランティア団体の活動を外から支援することですよね？」と話されていました。少しでも行政が重要性を認識して、協会やボランティアと協働していけるような提言になることを願っています。

なお、各回の会議録は京都府国際課ホームページで見ることができます。日本の社会は少子高齢化や労働力不足が深刻化していて、まだはっきりとした移民政策はとられていないのですが、サイドドアとしての実習生制度などで徐々に外国人住民が増えています。毎年年末に統計がとられるので近く昨年度の数値が発表されますが、過去最高の人数となるそうです。アジアの非漢字圏の人が多く、日本語学習機会の大切さは更に増していくと想像できます。

夢気球でも年末年始に新しい学習者から参加申込をもらっています。昨年来０（ゼロ）初級の学習者も増えています。支援者の皆さんには個々や夢気球としての対応など様々な状況でお世話をおかけしますが、養成講座やスキルアップ研修をはじめ、協会としても皆さんへのサポートや、協働としての努力をしていきますので、今年も引き続き良い学びの場となるようによろしくお願いいたします。日々のご意見などもお気軽に運営委員会や協会へお伝えください。

（城陽市国際交流協会　大久保雅由）